

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年6月30日現在

## 今月の重点活動

### ■だいこん・ほうれんそう・えだまめ・いちご **今年度のGAP取り組み方針を検討**

6月2日、JAぎふ島支店において、岐阜市園芸振興会だいこん部会・ほうれんそう部会、JAぎふえだまめ部会、岐阜市いちご部会のGAP運営委員会が開催された。

JAぎふから、今年度のGAP実践スケジュール及び組織体制の説明があり、農業普及課からは、昨年度分のだいこん部会の現地調査結果や今年度のGAPチェックリスト案などについて提案した。出席した役員は、今後のGAPの取り組み方針などについて、熱心に議論を交わしていた。

農業普及課では、GAPに関する研修会等を通じて、GAPに対する意識醸成やステップアップに向けて支援していく。（園芸産地支援第一係・高橋幸蔵、三和浩一、川部 知）



【GAP運営委員会の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■えだまめ **えだまめ塾を開催（第1回・第2回）**

JAぎふは、6月8日と15日、JAぎふ曽我屋枝豆選果場において、塾生7名を対象に、えだまめ塾を開催した。

第1回は、農業普及課が講師となって、えだまめ栽培について座学を行った後、脱莢機や選果場の視察、セルトレイを用いた育苗実習を行った。第2回は、JAぎふえだまめ部会の生産者が講師となり、岐阜市合渡のほ場で、えだまめの定植と直播き実習を行った。

参加した塾生からは、えだまめの品種選定や栽培管理、収支など数多くの質問があり、えだまめ栽培に向け意欲的な様子を感じ取ることができた。

次回8月中旬の第3回では、収穫・選別作業の実習を行う予定であり、農業普及課では、今後もJAぎふと連携し、塾の円滑な開催と担い手の育成を支援していく予定である。

（園芸産地支援第一係・川部 知）



【えだまめ塾の様子】

### ■いちご **新規就農者3名が栽培を開始**

全農いちご新規就農者研修所の第9期研修を終えた3名が、6月に岐阜市、各務原市でそれぞれの夢の実現に向けて就農した。

高設栽培ハウスは現在建設中だが、完成した新しい育苗ハウスで、育苗管理に取り組んでいる。研修所とは、日当たり、風向きなどが異なるため、近隣の経験豊富な生産者にアドバイスを求め、作業に汗を流している。

今後、農業普及課では、随時、巡回指導を行い、安定生産や地域



【育苗作業開始の様子】

に定着できるよう支援していく予定である。（園芸産地支援第一係・三和浩一、松浦香絵）

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 **水稲肥料銘柄集約検討会を開催**

6月9日、JAぎふアグリパークにおいて、JA全農岐阜主催による「水稲肥料銘柄集約検討会」が開催された。

全農では、全国で取扱っている一般高度化成約400銘柄を10銘柄程度に集約する計画があり、それに伴うJAぎふ管内の水稲基肥・追肥の集約銘柄への移行について、JA全農岐阜、JAぎふ、農業普及課の担当で検討を行った。銘柄集約により、資材費は1～2割程度



【検討会の様子】

安くなる見込みである。

農業者への周知を徹底することにより、スムーズに切替ができるよう、農業普及課としても引き続き支援していく予定である。  
(地域支援第一係・小島康平)

### ■水稲 **J A ぎふ営農指導員対象の水稲技術講習会を開催**

6月16日に、J A ぎふアグリパークにおいて、管内各地域の水稲青空教室で指導を担当するJ A 営農指導員の技術統一を目的として、水稲技術講習会が開催された。

農業普及課からは、ハツシモ岐阜S Lの栽培管理の基本事項を中心に、食味向上に向けた技術対策や病虫害防除について解説した。

岐阜県産米のブランド化、価格浮揚に向け、関係機関が一丸となり、米生産振興に知恵を絞り、支援していく計画である。

(作物部会・飯沼清敏、山田和彦、小島康平、岡田隆史、今井啓司、森 俊彦)



【水稲技術講習会の様子】

### ■小麦 **小麦の収穫完了**

当管内では、約350haのタマイズミが作付されており、6月3日から20日まで収穫が行われた。農業普及課では、これまでJ Aと連携し、子実の水分調査を実施して適期収穫を指導しており、乾燥施設の荷受け重量から推測して、昨年産を上回る収量を見込んでいる。

農業普及課では今後、定点調査や肥料試験等の結果について取りまとめ、次年度に向けた曆について検討する予定である。



【小麦収穫の様子】

(地域支援第三係・岡田隆史)

## 住みよい農村づくり

### ■えだまめ **えだまめ農業体験を実施**

6月17日、岐阜市内のえだまめ生産者のほ場及び作業場において、岐阜女子短期大学の学生4名を対象に、えだまめ農業体験を行った。

学生は、早朝から、生産者と共にえだまめを収穫した後、もぎ取りや選果の体験も行った。この取り組みは、えだまめの農作業体験をとおして、ものづくりについて理解を深め、食の意味と大切さについて考えてもらう目的で取り組んでいる。

参加した学生からは、ベルトコンベアを流れるえだまめを見て、「目が回る」といった感想も聞かれたが、慣れない作業ながらも真剣に取り組んでいた。

農業普及課は、今後も食農教育の一環として、支援を行っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【えだまめ農業体験の様子】

### ■水稲 **田植え体験を支援**

羽島体験プロジェクト実行委員会は、6月11日、羽島市桑原町の水田において、第20回プロジェクトの田植えイベントを開催し、県内外の参加者約120人が、「ハツシモ」の田植え体験とアイガモの放鳥を行った。

農業普及課からは、水稲「ハツシモ」の品種特性の説明や手植えの方法について説明をした。参加者にはリピーターも多く、慣れた手つきで手植えを行い、田植え体験を楽しんだ。



【田植え体験の様子】

(地域支援第二係・今井啓司)